

# 防災行政・障害者優先調達 推進法・山中湖村騒音防止 条例の運用と遵守について



樋口 重喜 議員

**Q** 村民・住民の安否確認体制はどのように行っているのか？

防災訓練時どのように確認したのか？全村民についての対応、別荘住民についての対応をお聞かせください。

**A** 全住民については、4地区の自主防災会に区の名簿を利用した情報伝達訓練をお願いし、実施した。別荘の方々や宿泊客については、今回の訓練では、安否確認は行っていない。

**Q** 8月31日状況で、5,864人中、世帯数2,333世帯、ところが4区の総世帯数は1,153世帯、約半数である。自主防災と言いつながら、実際は山中湖村の半分の世帯しか確認していないことになる。そこで今あるエリアをきちつと区分し、エリアの中の区会担当者がエリア全体を把握するというシステムはできないものか？

総務住民次長 坂本輝幸

区に加入していない住民の方の安否確認については、防災行政無線を利用した広報や白タオール訓練等により対応して行っているが、十分ではないと思うので、今後は自主防災会や消防団等と連携し、効果的なエリア確認方法を検討したい。

**Q** 障害者優先調達推進法に対する村の取り組みとやまなし森の紙を活用した福祉と環境を結びつけた実のあるシステムづくりの検討について

**A** 毎年度、障害者就労施設等優先調達方針を定め、具体的な取り組みとして、毎年長寿会スポーツ大会に近隣の障害者就労施設から参加者にお配りする弁当や記念品を購入している。今後、障害者就労施設等の増大を図るための措置を講ずるよう努める責務があると考えている。また、環境と福祉が結びついた取り組みも

積極的に考えていきたい。

**Q** 山中湖村騒音防止条例の運用と遵守について

今年も交流プラザで数々のイベントが開催されたが、他に比べて極端に音量を上げたロック系のコンサートがあり、世界遺産である富士山のふもと、高原リゾートの名に非常に反している。本来の山中湖村の魅力である豊かな自然と静穏を求め、親しみやすとする方々の思いを侵害してはなりません。そこでお尋ねします。山中湖村騒音防止条例をどのように遵守しているのか？

**A** 音の問題等に関しては、議員指摘のとおり、様々なお客様に対応できるように対策をしておくことが、今後地域住民の理解を得た中で円滑な野外音楽イベント等を継続的に開催していくために大変重要になると考えている。

観光課長 小林正宏

一般音楽イベント開催時の基準等を考慮した結果、PAオペ

レーター席、音響調整卓付近にて計測した平均音量値を95デシベルから100デシベルに規制してイベント運営を実施している。遮音効果を高めるための植栽やイベント内容の精査、イベント業者との綿密な打ち合わせを実施し、音の影響を最小限抑える対策を講じるとともに、可能な限りの方法による事前周知やイベント情報を施し、住民や別荘所有者等にご理解、ご協力をいただく取り組みを検討し、より多くのお客様の誘致に努めて参りたい。

**Q** 100デシベルとは、電車が通るガード下です。環境省が騒音防止法をつくっており、工場地帯であつても70デシベル以下である。私も協力します。再度時間があれば、観光課長、一緒にこの問題解決するということがお約束できますか。

観光課長 小林正宏

騒音問題に関しましては、騒音の担当の環境衛生課とも打合せをしながら、そういった内容に十分応えられるように頑張つて行きたい。